

## 給水財団



11事業体の情報



滝沢委員長

盤要状被害などにより配水管の応急復旧に取り組みなかつた地域の給水装置は対象外。対象口径は50以下。共同住宅などで複数のメーターが設置されている、給水装置

被災地域の5戸を残して仮復旧を完了した。復旧作業の進捗に伴い5月27日には他都市の応援活動が終了。現在、住民から片付けのために散水栓を設置する要望が寄せられ

5月23日に断水を解消したが、一部地域で飲用不可が継続していた御船町では1日、町内全域における水質の安全性を確認、避難指示区域を除く全域で飲料水としての供

ち家屋等損壊地域が約670戸、西原村の76戸(同約100戸)。5月30日時点で南阿蘇村では鹿児島市、鹿屋市、山鹿市、菊池市が応急給水を支援、西原村では福岡市と

## 熊本地震

## 熊本市の被害と対応

平成28年熊本地震により全市(32万6873戸)が断水した熊本市。4月30日には全市域で断水を解消、5月14日にはすべての本管漏水の修繕を完了させ、水圧・配水量ともに震災前の水準に近づきつつある。震災復旧の陣頭指揮に当たった水道技術管理者の中島部長に、これまでの経過と震災で得られた教訓、今後の対応などをお聞きした。

## ■全戸断水を決断

4月14日21時26分に熊本市を震度6弱の地震が襲い、96本の井戸のうち69本で濁度が上昇し送水することができなくなり、濁度が高くなるにつれていた水量の減少や水質の変化などの現象も現時点では確認されていません。配水池内に高濁度の水を貯めてしまつと復旧するまでに相当の時間を要しますし、緊急遮断弁が正常に作動して約6万立方分の水は確保していましたが、通常時と比べて1.5倍以上配水していた状態で、すぐに配水池が空になつてし

ら徐々に水圧を上げていき、最終的には公園や公民館など約60カ所の水質監視給水栓に加え、人海戦術で約300カ所の消防栓で水圧を確認し、4月30日に完全通水を行いました。

しかし、同日時点の配水量は平常時の約118%であり、水圧も平常時の半分程度だったため、その後も漏水の調査・修繕に努めました。5月8日には500の幹線でバックアップしていた健軍・秋田系統の1350

要請を行いました。漏水調査・修繕の進捗に伴い、応援隊による応急給水は5月6日、応急復旧は14日に作業を終了しました。この間、応急給水は最大で104団体に121台・339人、漏水調査と応急復旧は最大で58団体に延べ5289人を派遣していただきました。全国から多くの水道関係の皆さまにご支援をいただいたことについて、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。なお、管工事組合には

7割の水源が集中していましたが、これら親水源から各地の子水源をバックアップするシステムとなつていたため、子水源単独ではこのような非常時の需要水量を賄うことができなかったわけですが、更新・耐震化も積極的に進めてきています。平成18年度から新設・更新の際には耐震型ダクタイル鉄管などを採用しているほか、アセットマネジメントの結果に基づき、すべての管路を60年サイクルで更新・耐震化することとしていました。この結果、基幹管路(導水管、送水管、口径350以上の配水本管)の耐震適合率は74.0%と全国平均を大きく上回っています。

また、160カ所の本管漏水のうち、約70カ所が空気弁やフランジ部が被害を受けたことによるものでした。東日本大震災の教訓を踏まえて、空気弁における副弁の改良やフランジ部の補強などを行う方針を3月に決定したばかりでしたが、この取組の有効性を改めて感じました。今後は着実に進めていきたいと考えています。

## 約1ヵ月で本管を修繕

再開しましたが、合計で配水本管160件、給水管3702件で漏水が発生しており、特に健軍・秋田配水区域では配水量が前年同月比平均の約8万7000立方分に対して、最大で13万6000立方分まで増加しました。つまり漏水が多発しており、配水しても水圧がなかなか上がりませんでした。熊本市管工事協同組合と連携するとともに、他都市の応援も受けて漏水の調査・修繕を進めなが

また、想定されました。なお、井戸施設において取水に影響を及ぼす被害は1カ所でした。また、心配されていた水量の減少や水質の変化などの現象も現時点では確認されていません。配水池内に高濁度の水を貯めてしまつと復旧するまでに相当の時間を要しますし、緊急遮断弁が正常に作動して約6万立方分の水は確保していましたが、通常時と比べて1.5倍以上配水していた状態で、すぐに配水池が空になつてし

また、160カ所の本管漏水のうち、約70カ所が空気弁やフランジ部が被害を受けたことによるものでした。東日本大震災の教訓を踏まえて、空気弁における副弁の改良やフランジ部の補強などを行う方針を3月に決定したばかりでしたが、この取組の有効性を改めて感じました。今後は着実に進めていきたいと考えています。

また、160カ所の本管漏水のうち、約70カ所が空気弁やフランジ部が被害を受けたことによるものでした。東日本大震災の教訓を踏まえて、空気弁における副弁の改良やフランジ部の補強などを行う方針を3月に決定したばかりでしたが、この取組の有効性を改めて感じました。今後は着実に進めていきたいと考えています。

また、160カ所の本管漏水のうち、約70カ所が空気弁やフランジ部が被害を受けたことによるものでした。東日本大震災の教訓を踏まえて、空気弁における副弁の改良やフランジ部の補強などを行う方針を3月に決定したばかりでしたが、この取組の有効性を改めて感じました。今後は着実に進めていきたいと考えています。

また、160カ所の本管漏水のうち、約70カ所が空気弁やフランジ部が被害を受けたことによるものでした。東日本大震災の教訓を踏まえて、空気弁における副弁の改良やフランジ部の補強などを行う方針を3月に決定したばかりでしたが、この取組の有効性を改めて感じました。今後は着実に進めていきたいと考えています。

上下水道局  
維持管理部長

## 中島 博文氏に聞く

熊本市管工事協同組合と連携するとともに、他都市の応援も受けて漏水の調査・修繕を進めなが

また、想定されました。なお、井戸施設において取水に影響を及ぼす被害は1カ所でした。また、心配されていた水量の減少や水質の変化などの現象も現時点では確認されていません。配水池内に高濁度の水を貯めてしまつと復旧するまでに相当の時間を要しますし、緊急遮断弁が正常に作動して約6万立方分の水は確保していましたが、通常時と比べて1.5倍以上配水していた状態で、すぐに配水池が空になつてし

また、160カ所の本管漏水のうち、約70カ所が空気弁やフランジ部が被害を受けたことによるものでした。東日本大震災の教訓を踏まえて、空気弁における副弁の改良やフランジ部の補強などを行う方針を3月に決定したばかりでしたが、この取組の有効性を改めて感じました。今後は着実に進めていきたいと考えています。

また、160カ所の本管漏水のうち、約70カ所が空気弁やフランジ部が被害を受けたことによるものでした。東日本大震災の教訓を踏まえて、空気弁における副弁の改良やフランジ部の補強などを行う方針を3月に決定したばかりでしたが、この取組の有効性を改めて感じました。今後は着実に進めていきたいと考えています。

また、160カ所の本管漏水のうち、約70カ所が空気弁やフランジ部が被害を受けたことによるものでした。東日本大震災の教訓を踏まえて、空気弁における副弁の改良やフランジ部の補強などを行う方針を3月に決定したばかりでしたが、この取組の有効性を改めて感じました。今後は着実に進めていきたいと考えています。

また、160カ所の本管漏水のうち、約70カ所が空気弁やフランジ部が被害を受けたことによるものでした。東日本大震災の教訓を踏まえて、空気弁における副弁の改良やフランジ部の補強などを行う方針を3月に決定したばかりでしたが、この取組の有効性を改めて感じました。今後は着実に進めていきたいと考えています。